

神戸市外国語大学 学術情報リポジトリ

はしがき

| | |
|-------|---|
| メタデータ | 言語: jpn 出版者: 公開日: 2005-03-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 小林, 致広, Kobayashi, Munehiro メールアドレス: 所属: |
| URL | https://kobe-cufs.repo.nii.ac.jp/records/1057 |

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



は し が き

本書は「中南米におけるエスニシティ」研究班としては5番目の報告集である。最初の3集はニカラグア、グアテマラ、メキシコの先住民族の法的認知、先住民自治をめぐる議論を中心に編集してきた。しかし、出稼ぎの増加など先住民社会が大きな変動に直面している状況を踏まえ、第4集からは、おもにメソアメリカを対象として民族的アイデンティティに焦点を当てた研究を行ってきた。本報告集には、6編の研究成果を編集することができた。

禪野・井上の論文は、メキシコ中央高原のナウァ系先住民の歴史観を研究してきた井上とメキシコ市に移住したオアハカ州の先住民コミュニティの研究をしてきた禪野による共同論文となっている。山本と武田の論文は、メキシコ留学中に社会人類学高等研究調査センター（CIESAS）で行なった現地調査を踏まえた研究である。山本は近年数多くの出稼ぎ労働者を輩出しているワステカ地域、武田はダム建設などにもなう移住入植地のベラクルス州南部ウスパナパ地区を対象として取り上げ、農村社会の結婚や相続においてジェンダーがもつ意味や機能の変化に注目した分析を行なっている。吉田は前稿に引き続きユカタンの先住民社会の祭礼を取り上げ、祭礼を継続する論理について考察している。小林はチアパス高地における首切り妖怪に関する言説の変遷を手がかりにして、他者イメージと暴力の関係を考察している。大濱は米国に強制連行されたペルー日系移民の語りを分析し、通説となっている被害者イメージから脱落しているものを探ろうとしている。

今回、報告集に原稿を載せられなかった若手研究者も着実に現地調査を行っており、次回以降もそうした研究成果を提示できるものと確信する。

2004年10月10日

研究班代表 小林 致 広